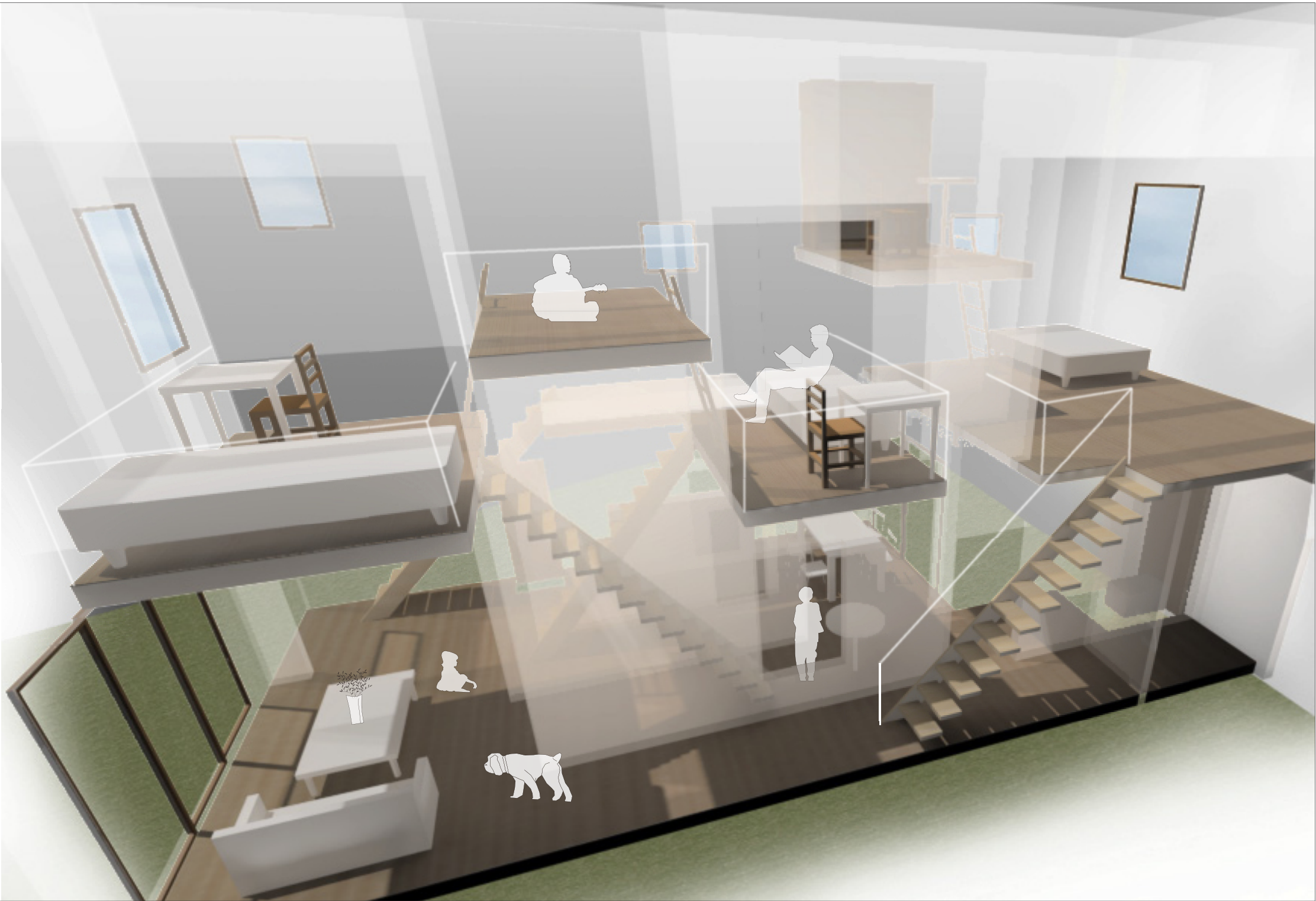




浮遊する個の領域



曖昧な連続したつながり

曖昧に逸れる

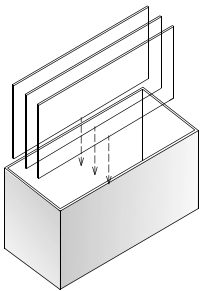
concept

この住宅には個室というものは存在しない。全ての空間はつながっている。
この住宅の内部にはドアが存在しない。全ての空間はつながっている。

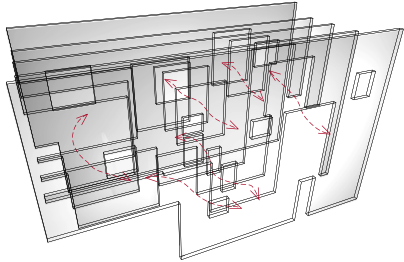
家族という制度は解体され、家族はお互いの関係を隔てようとしている。個人での生活が重視されていき、同じ家の中バラバラになっていく家族の住まい方に疑問を持った。家の中ですら届かなくなっている家族の会話、それを生み出している壁一枚、ドアの一枚という境界を変化させようと考えた。家族と暮らす中で互い個人の領域が独立しそうでしない、どこかつながりがある生活を求め設計する。

個の領域が曖昧な住宅。住宅という一つの箱の中に家族それぞれが曖昧に領域を創り出し暮らしていく。また、お互いの領域を感じながら暮らしていく。今まで届かなかった声が届く。家族というつながりを再認識する。時が流れにあわせて、この家の中は曖昧なまま変化していく。子供達は成長に合わせて自分の領域を創り出していく。人も、家も、陽の光や風の流れさえもこの中ではすべて曖昧に逸れていく。

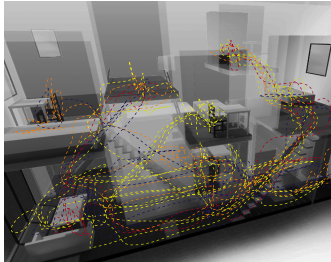
diagram



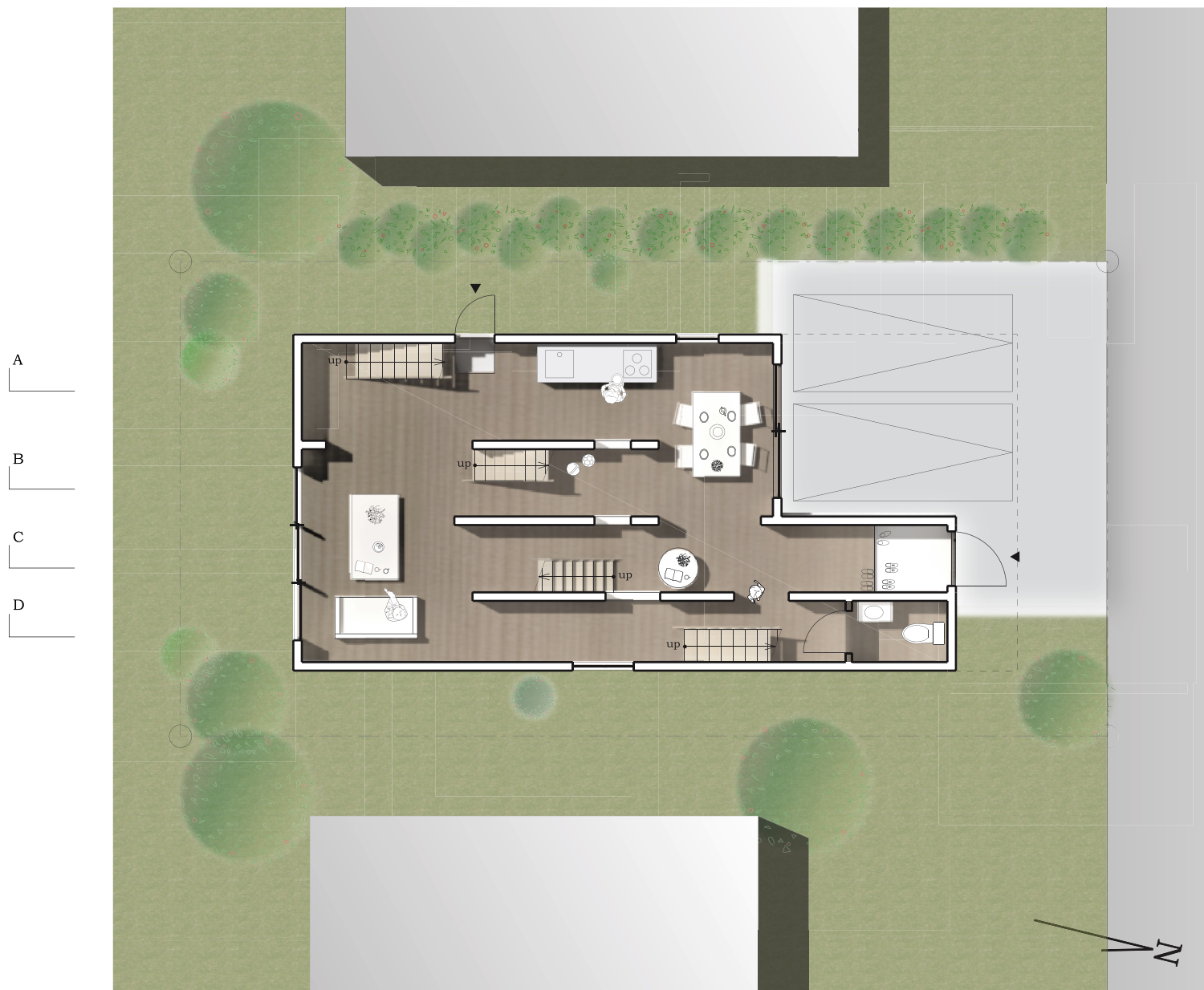
1. 大きな箱を壁でストライプ状に区切る



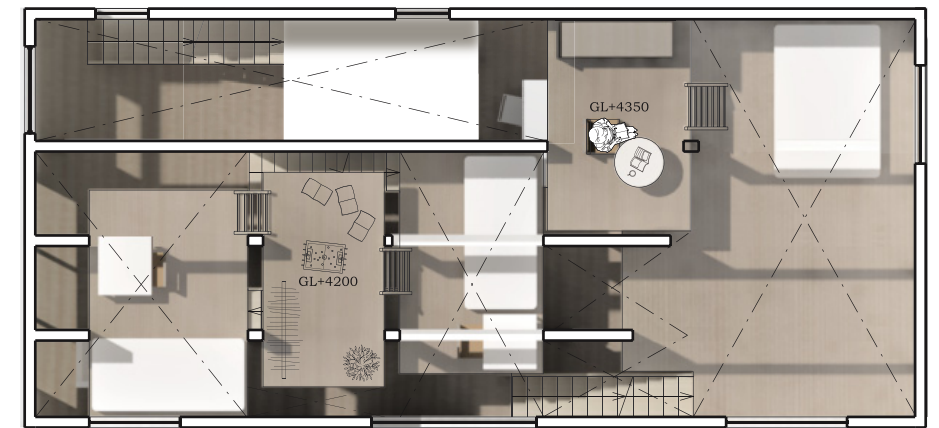
2. 曖昧な横のつながりを持たせる



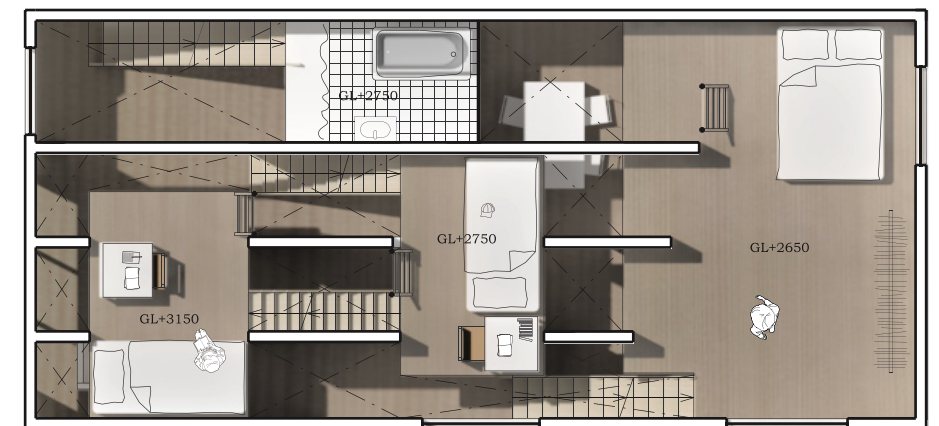
3. 分割されているようでされていない曖昧な空間が生まれる。家族は曖昧に自分の領域を見つけながら暮らしていく



site plan

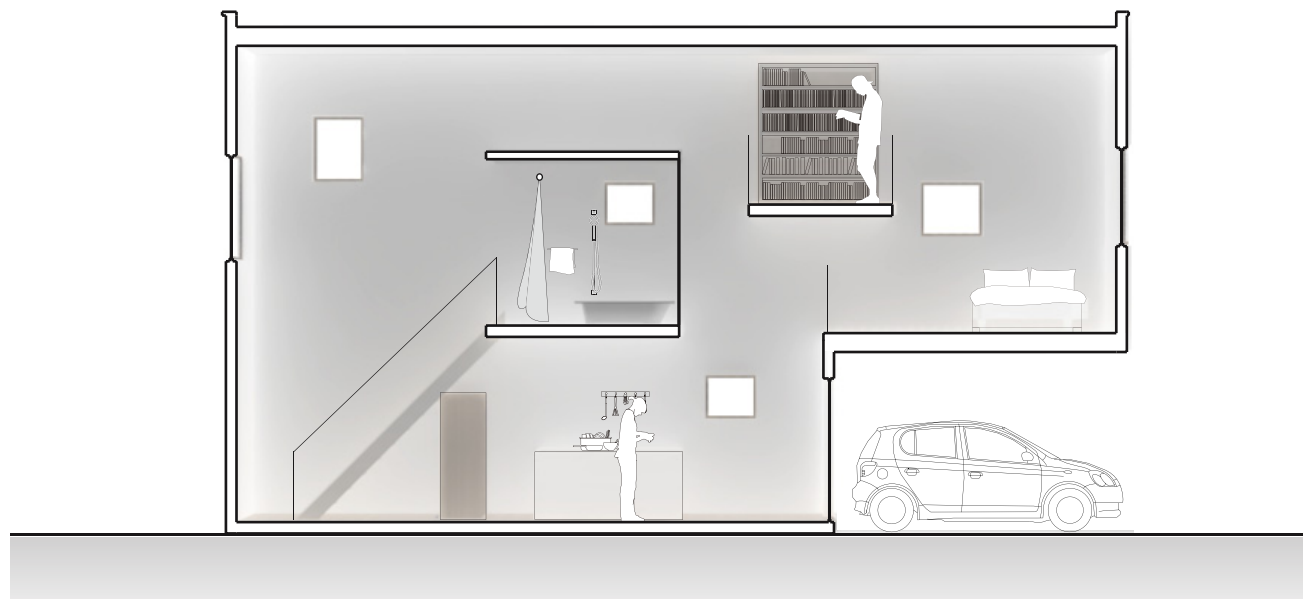


plan GL+5500

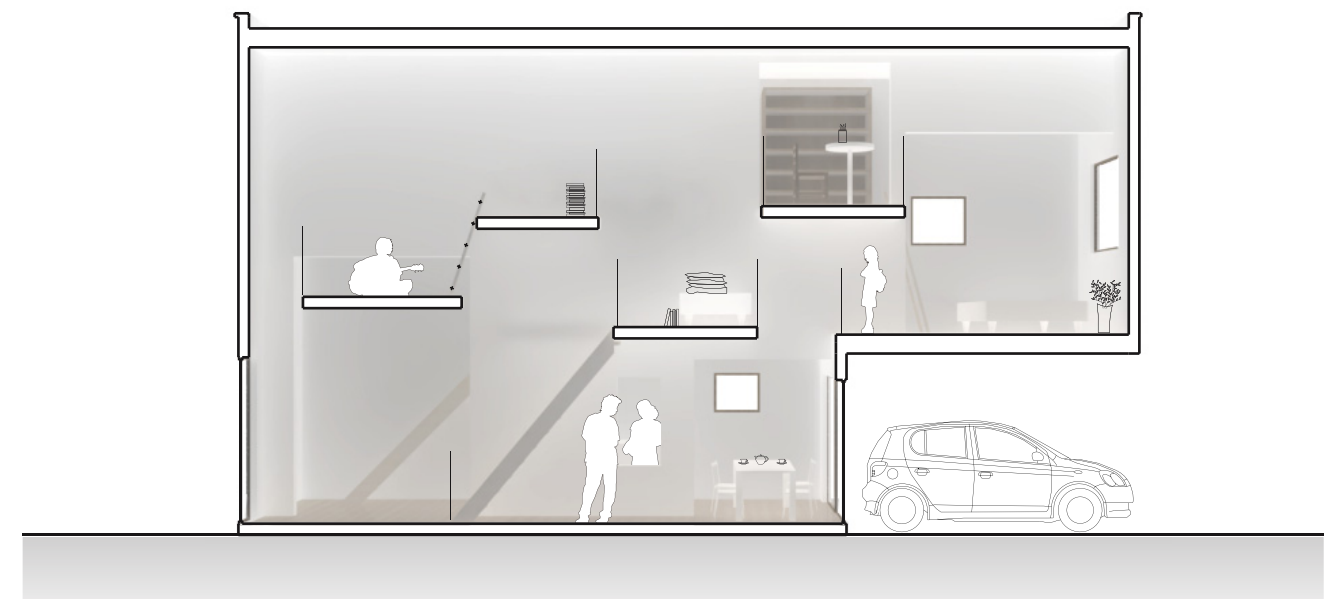


plan GL+3900

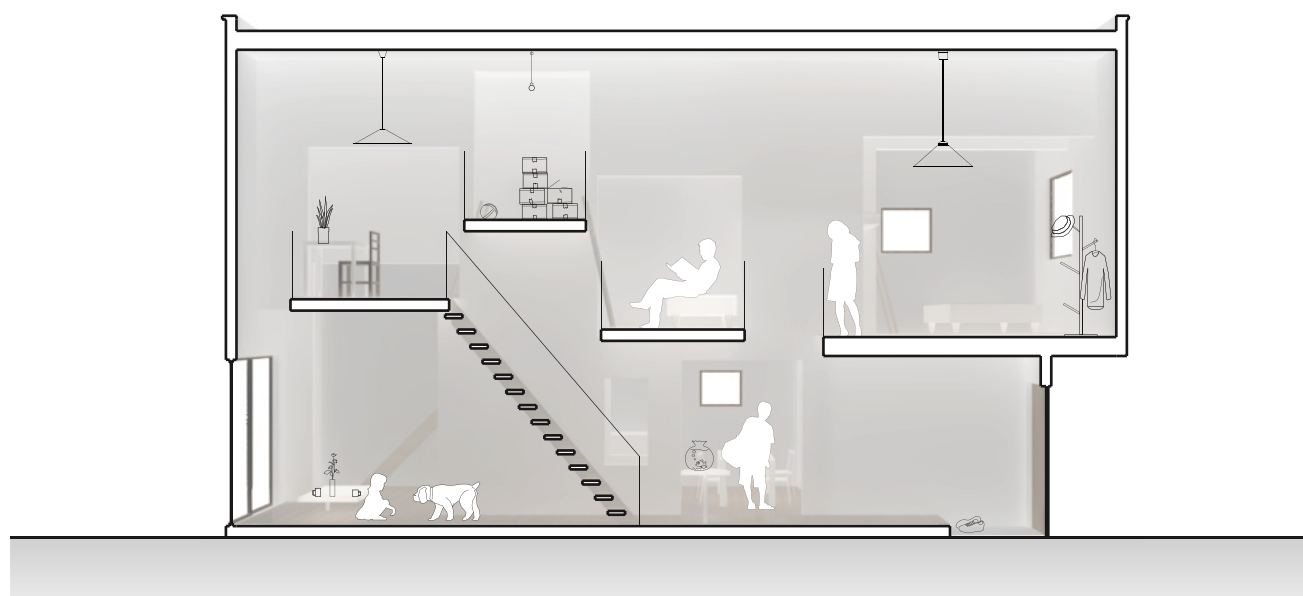




AA' section



BB' section



CC' section



DD' section





north elevation

East elevation



west elevation

south elevation